

# 穂肥は適切に施用しましょう！

曇天傾向が続いたため草丈が伸び、葉色は指標値並ですがほ場間差が大きい状況です。倒伏しないように適切な穂肥診断、高温気象に備えた適切な用水管理が必要です。

コシヒカリの出穂期は「平年より4日程度早い」見込みです。

## 1 7月10日現在のコシヒカリ生育状況(拠点9地点平均、移植日平均5月9日)

草丈(長) 茎数(やや多) 葉数(並) 葉色(並、バラツキ大)

	本年値	指標比・差	前年比・差
草丈 (cm)	70	111%	94%
茎数 (本/m <sup>2</sup> )	523	109%	97%
葉数 (葉)	11.1	+0.1	-0.5
葉色 (SPAD値)	36.9	+0.9	+3.3

## 2 コシヒカリの管理ポイント

### (1) 分施の穂肥(1回目:出穂期20日前、2回目:出穂期12~10日前)

ア 出穂が早まる見込みのため、穂肥が遅れないよう注意する。

イ 出穂期の20日前頃の草丈が長い(75cm以上)場合、施用を2~3日程度遅らせる。

ウ 2回目の穂肥は「必ず施用」する(1回目ができない場合でも)。

### (2) 一発基肥の追肥(出穂期12~10日前)

ア 生育が次のような場合、追肥を施用する。

葉色が著しく低下している場合(葉色板3.3以下、SPAD値30以下)

※ 詳しくは、佐渡米カレンダー(7月)を参照。

減減栽培では化学窒素分量の超過に注意。

## 3 その他の管理ポイント

(1) 中干しは出穂期の30日前をめやすに終了する。中干し開始が遅いほ場でも、遅くとも幼穂形成期(出穂期の23~25日前)には中干しを終了し、間断かん水から飽水管理に移行する。

(2) 一部でいもち病の発生がみられる。発生が目立つ場合は薬剤防除を行う。

(3) 高温年は斑点米の多発が懸念されるので、一斉草刈り期間中(7/14~20)に必ず草刈りを実施する。